



メディアとは何だろうか

独立行政法人メディア教育開発センター 堀田 龍也

メディアとは何だろうか。この問いへの回答は容易ではない。

工学系の分野では、メディアとはデータを保存する媒体を指すことがある。たとえばCD-ROMはメディアであるという解釈だ。ではパソコンはメディアかという、これがまた難しい。データを保存するのはパソコンではなくハードディスクだ。そうすると、ハードディスクがメディアで、パソコンはメディアではないということになる。故にこの定義は不十分だ。

同じく工学系の分野における別の定義として、メディアとはデータを処理する装置だというものがある。パソコンは確かにデータを処理する。テレビも、電波によって送られてきたデータをディスプレイに表示するという処理をしている。しかし、では新聞はメディアかということになると、また立ち止まってしまう。新聞は確かに処理されたデータが掲載されているし、それを自宅に届けるという処理をしてくれているとも拡大解釈できるが、掲載されている情報を処理しているのは新聞そのものではないし、届けてくれているのも人である。故にこの定義もまだ納得が行かない。

やや社会学系に寄った分野では、情報を伝達する装置をメディアと呼ぶことがある。この定義なら、新聞は確実にメディアだといえる。テレビも、インターネットも、最初に取り上げたCD-ROMも、確かにメディアだ。

ただ、ここでもまた気になることがある。人が情報を伝達することがある。すると人はメディアだということになる。人は装置ではないからメディアとは言わないということにするならば、では新聞は装置なのかという疑問が生じる。故にこの定義でもまだ十分ではない。

筆者はこのコラムで、メディアとは何かということを定義したいわけではないし、もとよりその力量はない。ただ、世の中で多く使われている「メディア」という用語が、考えてみればこんなに曖昧にとらえられているという現実を示したかったのだ。

私たちは日々メディアに囲まれ、メディアとともに暮らしている。しかしメディアとは何かということをしつくり突き詰めて考えたことはないのではないか。それでよいのだろうか。

メディアの形は日々変わっていく。私たちはメディアから受け取る情報を頼りにさまざまな判断をする。仕事や生活でメディアを使いこなす。私たちは確実にメディアの影響を受けている。そんな私たちだからこそ、今一度、メディアについて議論してみてもどうだろうか。

ほりた たつや 文部科学省参与などを併任。政策立案から教育現場の実践指導まで、情報教育に関するあらゆる場面に精力的にかかわっている。